

Money meets the Int

執筆

榊山 寛

masuyama@dabb.com

㈱タブ代表取締役、
メディア環境研究者
99年はプロデュースしたゲーム
がNINTENDO64、プレステで発売
<http://www.masuyama.com/>

監修

リチャード・マイケル・
ナッシュ

Private Assets Limited 取締役社長
国際金融の専門家として、
国際資産運用に関する
コンサルティングや
講演などを行っている

実践！インターネットユーザーのためのマネー入門



「オフショア」や「タックスヘイブン」という言葉には悪いイメージを持たれている方が多いのではないかと、それはまったくの誤解だ。オフショアとは、非居住者のビジネスや投資を活性化するために、いわば国策として税制優遇や規制緩和を行っている地域のこと。ビッグバン以降の日本人にとっても、堂々と使いこなせる金融センターなのだ。ネットを通じてオフショアへと旅立ってみよう。

この記事は特定の金融商品への投資を勧誘するものではありません。運用は目的を持って自己責任で行ってください。

Chapter 6 日本人にも大きなメリット オフショアの世界をインターネットで実感！

オフショア金融センターとは？

半年間続けてきたこの連載だが、第一部もいよいよ大詰め。今回は「上級篇」ともいべきオフショアファンドについて触れたい。

金融に詳しくない人でも、「オフショア」あるいは「タックスヘイブン」という言葉を目にしたことがあるだろう。タックスヘイブン (Tax Haven) とは「租税回避地」のこと、発音が似ているHeavenからの類推で「税金天国」と書かれることがあるが、明らかな誤訳である。これまでに取り上げられた米国株や

外貨預金などよりさらに馴染みがなく、中には犯罪がらみのマネーロンダリングや脱税など、ダークなイメージを持たれている方もいるかもしれない。そこで、冒頭に明言しておきたいのだが、日本人がオフショアで資産を運用することは、基本的に合法であり、日本国内での申告をきちんとしさえすれば何も問題はないのだ。

「オフショア=沖合い」は国内の税制が及ばない地域という意味で、タックスヘイブンと同義だが、最近では上記のようなイメージの刷新のために「タックス～」ではなく「オフショア金融センター」という用語が一般的になってきている。ここでは「オフショア」で統一しておきたい。世界有数の経済紙『ファイナンシャル・タイムズ』(1)にもオフショアファンドの基準価格が毎日掲載されており、ウェブ上で検索もできる。つまり、資産運用先としてのオフショアは世界レベルから見れば、ごく普通の場所なのだ。

オフショアに興味を持たれた方には、「タックスヘイブンを楽しむ会」(現在は「海外投資を楽しむ会」と改称)による書籍『ゴミ投資家』シリーズ(2)や、この連載の監修者、R.M.ナッシュ氏の著書が参考になる(3)。

オフショアで得られるメリット

オフショア最大の特徴は、何といても非居住者への税制優遇措置だろう。たとえば、日本国内では預金金利などに20%の源泉税が課せられるが、それがゼロになるのだ。金融初心者にとっては、なぜそんなウマイ話が、という素朴な疑問がわくが、319ページの地図でもおわかりいただけるように、オフショアは地理的、政治的に金融や観光以外の産業振興が難しい地域が多く、ビジネス拠点として海外からの投資を国策的に奨めているのだ。したがって、税制のみならず法人の設立や金融商品に関しても規制が少なく、優れたファンドの存在へとつながることになる。

しかし、そんなオフショアのメリットが万人に開かれていては、世界中で税金を払う人が激減してしまうだろう。実は米国の市民権がある人などは、基本的にオフショアに投資することはできない。つまり、これまでオフショアを利用して来た個人とは、英国人の非英国居住者、英国以外のヨーロッパ、中南米やアジアの富裕層が中心だった。法的な規制以外に日本でオフショアが知られてこなかった大きな理由は、こんなところにもある。金融ビッグバン時代を迎えた今、日本人もそのメリッ



1 英国の経済紙『ファイナンシャル・タイムズ』
<http://www.ft.com/>
無料の会員登録が必要。

世界の主なオフショア地域

オルダニー島
ダブリン
ガンジー島
ジャージー島
ルクセンブルク
モナコ

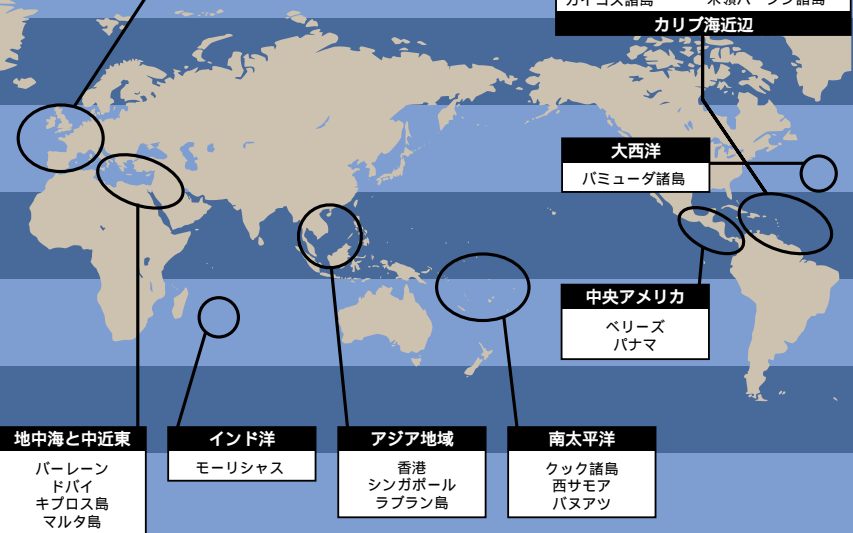
アンドラ
ジブラルタル
マン島
リヒテンシュタイン
マデイラ諸島
スイス

ヨーロッパ地域

アンギラ島
アルバ島
バルバドス
ケイマン諸島
タークス諸島
カイコス諸島

蘭領アンティル諸島
アンティグア
バハマ
英領バージン諸島
モントセラト島
米領バージン諸島

カリブ海近辺



トを大いに享受すべきなのだ。ただし、オフショアで運用した資金も日本国内に移動すれば、課税対象になるのは当然であり、「オフショア=非課税」という単純なものではない。詳しくは専門書やファイナンシャルプランナーにあたっていただきたい。歴史的な超低金利下の日本では考えられないほど有利な部分があるオフショアの世界。実行するためのハードルが低いとはいえないが、グローバル時代の資産運用における選択肢の1つとして、実感していただきたい。

長期平均年利10%が目指せるファンド

では、私たちのような小額投資家がオフショアでできることは何だろう。1つは、国内で販売されている商品に比べて非常に有利なファンドを直接オフショアから購入できること。R.M. ナッシュ氏によれば「オフショアで、長期の平均年間利回り10%を上げられないファンドマネージャーは失格」という世界なのだ。国内で売られる「海外ファンド」でも、広告などをよく見ると「ルクセンブルグ籍」と書いてあったりして、元をたどればオフショア籍というものも少なくないが、手数料や税金の問題を考えれば、直接買ったほうが有利なのは当然だろう。日本人向けにパッケージングされた国内の商品とは異なり、文字どおりグローバルなニーズに応じた選択肢の多さもオフショアファンドの魅力だ。前回取り上げた米国ミューチュアルファンドは、米国非居住者からの購入に関して法的にグレーゾーンであるのに対し、オフショアファンドにはその問題がないことも記しておこう。

残念ながら、今のところオフショアの会社からインターネットを通じてファンドを購入することはできない。しかし、4万種類ともい

れるオフショアファンドが登録されているデータベース「マイクロバル」が無料で公開されており、前述の『ファイナンシャル・タイムズ』のサイトと組み合わせることで、詳細でアップトゥデートな情報を得ることができる。これは、これまではごく一部の専門家しか知り得なかったものだ。インターネットは、オフショアファンドの世界においても、革命的な変化のツールとなりつつあるといえるだろう。

また、ここでは詳しくふれないが、郵便とファックスを使えば、オフショアの銀行に外貨で口座を開くことができる。日本でいう普通預金でも数パーセント台の金利が付き、海外送金に便利なパーソナルチェックや、ドル

建てのオンラインショッピングに最適のドルのクレジットカードを作ることが可能なのだ(*2)。

関連サイト

ナッシュ氏著書(*1)
『日本人のためのオフショア金融センターの知識』
<http://www.dv.diamond.co.jp/bookcands/Order/Detail.asp?ID=18006>

「海外投資を楽しむ会」(*2)
<http://www.alt-invest.com/links/index.html>
オフショア銀行の口座開設情報ならここ



②書籍『ゴミ投資家』シリーズ
http://www.mediaworks.co.jp/alt/bigban/topic_s.html
掲示板が活発で初心者にも為になる



③ケイター・アレン銀行(マン島)
<http://www.caterallen-bank.com/>
オフショア銀行の一例

資産運用の基本 を確認しておこう

さて、ファンドには種類がある分、シロウトには何をどう選んでよいのか「とっかかり」が見えにくいのではないだろうか。マイクロパルのデータベースには、オフショア以外にも世界のファンドが登録されており、その量とバリエーションの多さには圧倒されてしまうほどだ(4)。そこで、ここからはナッシュ氏に直接うかがった「オフショアファンド選びの基本原則」を概括することにした。

まずは、連載第一回にも掲載した「個人の国際資産運用の基本」を復習してみよう。この基本の徹底なくして、新しい時代の資産運用スタイルを作り上げることはできない。ちょっとファンドに興味があるから、場当たりに1種類だけ買って、あまり上がらないので1年で売ってしまったなどというのは、「運用」とは呼べない。詳しくは、この連載のバックナンバーがウェブ上にPDFファイルとして公開されているので、そちらをご覧ください(323ページ参照)。

目的を定める

5年後、10年後の自分をリアルに想像することは簡単ではないが、教育費や住居費など、実質的に必要となる「ニーズ」、夢や目標ともなる「ゴール」に分けて考えよう。

中長期で考える

資産運用は、5年以上の中長期で考えなければならない。また、ファンドという商品の性質上、短期売買には不向きである。

グローバルに考える

米国だけ、欧州だけなどと地域を限定せず、世界全体を意識しよう。

Profile

リチャード・マイケル・ナッシュ
Richard Michal Nash



国際資産運用のスペシャリストとしてコンサルティングや講演などで活躍中。本連載では監修を務める

対象は広く分散する

株、債券といった商品の種類。業種、通貨なども世界レベルで分散すべきだ。

リスク許容度を知る。

年齢や性格、資産の額などによって、個人のリスク許容度にはかなりの幅がある。自分がどこまでリスクを受け入れられるかを冷静に判断しよう。

ファンド選びの 基礎の基礎

こうした原則を踏まえたうえで考えると、自分の総投資金額を100%としたとき、それぞれのファンドにどんな割合で割り振るかという作業が必要になる。これが「アセット・アロケーション」で、その結果がいわゆる「ポートフォリオ」と呼ばれるものだ。まず初めに、自分のポートフォリオの「核」になる部分を作らなければならない。一般的には世界の株式を対象とする「グローバルエクвитиィ」、債券の「グローバルボンド」などが挙げられる(註:商品名ではない)。

株と債券のバランスは、目的や年齢、リスク許容度によって変化するだろう。全体の安定性を高めたいければ、確定利回りかそれに近いものの比重を増やすことになる。

次に、株式や債券といった市場の値動きとは関係がない「非相関運用」と呼ばれる商品も、ある程度の割合で入れておくべきだ。すべてが同じ傾向で動くもばかりにするのは、分散の原則に反しているからだ。

こうして「核」になる部分を決めたら、それはあまりいじらずに、残りの部分は自分の興味や好みを入れて選べばよいだろう。コンピュータに詳しければ「ハイテク株」、ヨーロッパがこれから伸びると思えば「ヨーロッパグロース」といった種類を選ぶのだ。なお、オフショアには日本の株式を主体としたファンドも数多くある。

次にファンド運用会社は、特に初心者の場合には伝統があって名前が知られているところを選ぶのが望ましい。大手で、ファイナンシャル・タイムズに掲載され、さらにコンスタンに10%台の利回りを出しているものだけでも数百種はあるだろう。あとはマイクロパルなどのデータベースで、格付けを参考にすることになる。その際は、たとえば「リチャード・ナッシュ・アンド・マネージャーズ」など個人の名前を前面に出しているようなファンド



④「マイクロパル」
<http://www.micropal.com/>
S&P社が運営する巨大なファンドデータベース

会社は避けたい。ウデの問題だけではなく、個人に何かがあったときに、その運用会社のファンドがどうなるかがわからないからだ。

あと、これは「言うは易し、行うは難し」の典型的なのだが、自分なりのディシプリン(規律)を決めて実行することが非常に重要になる。たとえば、仮に利益率は20%と決めてあったら、もう少し上がりそうでもその時点でポートフォリオの調整を考えるべきだ。



お金のオフショア 情報のオフショア

次に、下記のやり方を参考に、マイクロパルのサイトでオフショアファンドの実態を覗いてみてほしい。年間利回りが、40~50%といったものも珍しくなく、逆に元本割れているものも多々あることがわかる。投資手法や地域などのバラエティーはまさに圧巻で、この選択肢の多さこそがグローバルスタンダードなのだ。逆にいえば、国内で「海外ファンド」として販売されているものは、氷山の一角にしか過ぎないことが実感できるだろう。

ここから先はチャレンジ精神でやってみるしかない。実際に買うためには、郵便やファックスによる「通信販売」的な作業が必要になる。英語が苦手な、金融の専門家でない普通のサラリーマンでも、それが可能なことを実証したのが、次ページのインタビューに登場する「海外投資を楽しむ会」の面々だ。また、オフショアであるマン島に本社を持ち、在英の

日本人が運営するオフショア金融コンサルタント会社もウェブ上で見つけることができた(*3)。

本誌読者であれば、インターネットが「国境」の意味をどれだけ根本的に変えつつあるかについて多言を要さないはずだ。たとえば、「.com」ドメインで米国内に置かれているウェブサイトであれば、基本的に日本国内の法

律を摘要するのは難しい。これは、表現を変えれば「情報のオフショア」といえる。その情報 = コンテンツが、映像や音楽ではなく「お金」であった場合、そのサイト(場所)はオフショア金融センターになる。つまり、ネットユーザーであれば、感覚的な部分では、すでにグローバルにお金を運用することのイメージがつかめているはずなのだ。それをどのよ

うに実践してゆくのか? 決めるのはあなた自身だ。

関連サイト

日本人運営のオフショア金融コンサルタント会社、リッジウェイ・コーポレーション(*3)
<http://www.users.dircon.co.uk/~mmcridge/>

実践編

マイクロパルで オフショアファンドを検索!

1



世界最大のファンドデータベースで、オフショアの世界を実感してみよう。

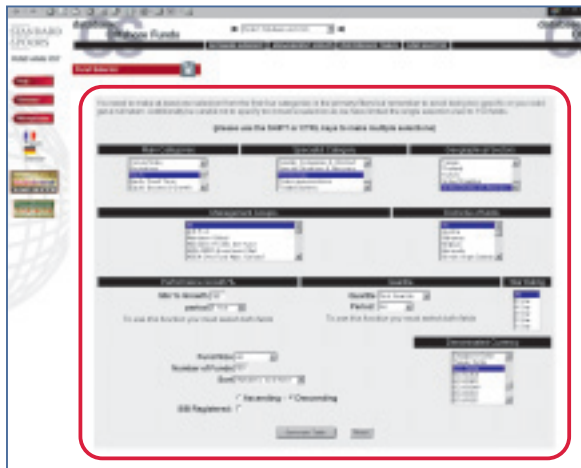
2

トップ画面 (<http://www.micropal.com/>) から「click here to enter」でここへ。表の中から「Offshore Funds」をクリック。



「database : Offshore Funds」のトップ。上部のメニューから「FUND SELECTOR」を選ぶ。

3



4万以上あるオフショアファンドから、種々のフィルターを使って選択が可能。フィルターは左上から、投資基本手法、専門手法、投資地域、運用会社、ファンド所在地、運用成績(%)、1/4 ランキング、スターレーティング、ファンド規模、主な運用通貨。ここでは、例として次の要件を満たすように指示してみる。

「US ドル建てで米国のテクノロジー株に投資し、過去5年の通算成績が100%を超える、上位1/4を選択。運用会社、ファンド所在地、規模、スターレーティングは問わない」

4



結果として、5種のファンドが表示された。99年5月1日現在、5年で300%もの成績を上げているものが3種ある。

ここで表示されるものが、必ずしもすべて日本から購入できるとは限りません

「オフショアバンクは おすすめだと思います」



「海外投資を楽しむ会」

alternative investment club
『ゴミ投資家』シリーズを手掛ける投資のアマチュア集団。余分なお金をかけない徹底したローコストの運営を目指し、「Do it yourself」の精神でさまざまな運用手法に挑戦している。

話題の書籍『ゴミ投資家』シリーズは、わずかな資産しか持たない個人投資家が、オフショア金融センターや米国株式投資に挑戦していく過程を描いたものだ。余裕資金数百万円程度の「ゴミ投資家」として、オフショアに活路を見いだしたシロウト集団にその実情取材してみた。

「海外投資を楽しむ会」(以下、AIC)の概要を教えてください。

AIC : AIC (Alternative Investment Club) は、オルタナティブな、つまりこれまでとは違った形で海外投資を楽しむ人々のための会員組織です。

特色は、DIY (Do It Yourself) の姿勢とインターネットを活用していることでしょうか。もともと、「タックスヘイヴンを楽しむ会」として『ゴミ投資家』シリーズの本を執筆・制作していた仲間だったのですが、編集部(メディアワークス社)で設置していたウェブの掲示板(*4)が非常に活発になり、投資対象も広がってきたので、自前のサーバー(*5)を開設し、会員を公募することにしました。99年7月から正式スタートする予定で、6月初旬現在で七百数十名の会員数、年会費は2,000円です。つい最近、アメリカに法人を設立し、「海外投資を楽しむ会」はその一部門になりました。国内でも(株)オルタ・インベスト・コムとして活動しています。

といっても、専従のスタッフがいるわけではなく、スタッフは全員他の仕事とかけ持ちでやっているので、会社というよりは同好会やサークルに近い組織なんです。

『ゴミ投資家』シリーズでは、『ビッグバン入門』、『税金天国入門』、『海外ファン入門』と継続してオフショアを取り上げていますが、オフショアに投資をするようになるきっかけは何だったのでしょうか。

AIC : 折からの超低金利に、小額投資家でもできることはないかと、あれこれ調べているうちに既存の国内金融機関が扱う商品ではほとんどメリットがないことがわかりました。そのとき、たまたまR.M. ナッシュさんの本『日本人のためのオフショア金融センターの知識』に出会って、こんな世界もあるのだということを知ったのです。当初、私たちは投資にもインターネットにもシロウトだったので、1年の間に何冊もオフショア投資に関する本を出すなどは誰も予想していませんでした。

実際に、ご自身でオフショアに投資をされてみた率直なご感想はどんなものでしょう。

AIC : 投資がうまくいくかどうかは、長期で考えているのでまだわかりませんが、少なくとも、最初にオフショアファンドの資料を請求したとき、ファンド会社の反応がよかったのは驚きでした。小額でも、積極的に相手をしてくれるんだという喜びがありました。

インターネット上では、オフショアファンドの検索はできますが、購入がまだできません。ネット以外の手続きは煩雑ではありませんか。

AIC : ファンドのほうは基本用語さえ覚えてしまえば、中学生レベルの英文ファクスを送るだけなので、それほど難しくはありません。私たちも英語は決して得意ではないんです。むしろ、オフショアバンクに独力で口座を開設するほうが大変でしょう。詳しいハウツーはウェブに載せてあります。

ズバリ、オフショア投資はシロウトにもすすめられるものなのでしょうか。

AIC : もちろんケースバイケースですが、オフショアバンクに口座を持つのは便利です。外貨建てのクレジットカードやパーソナルチェックが使えるので、為替リスクがありませんし、送金の手間も手数料も少なくてすみます。インターネットユーザーの方なら、海外サイトでのオンラインショッピングの際に、かなり威力を発揮するのではないのでしょうか。

関連サイト

「ゴミ投資家」シリーズTOPICS(*4)
<http://www.mediaworks.co.jp/alt/bigban/topics.html>

海外投資を楽しむ会(*5)
<http://www.alt-invest.com/>



左から、『ゴミ投資家のためのビッグバン入門』、『ゴミ投資家のための税金天国入門』、『ゴミ投資家のための海外ファン入門』、『ゴミ投資家のためのインターネット株式投資入門』(最新刊)
発行: メディアワークス
発売: 主婦の友社



オンライントレードの大ブームが必ず来ます

誤解のないよう最初に書きますが、私は金融の専門家ではありません。もともと「社会現象としての」金融ビッグバンに興味があり、ナッシュさんの本をきっかけに勉強しているうちに、多少詳しくなったという程度です。その上で言うと、まず「何でもよいから、何が儲かるのか教えてくれ」という質問への答えはないんですね（笑）。それはパソコンを買うときに、目的や予算を聞かないとノートがいいのかデスクトップがよいのかさえ分からないのと同じです。ですから、320ページの「資産運用の基本」は、決してただのお題目的なものではなく重要な必須事項なのです。資産運用をプロに頼めば、どこでも同じようなことを言われるはずですよ。

連載を始めて痛感したのは、日本では「お金」の話がまだまだタブーに近いことですね。すごくマジメな話のつもりで「米国株は、数十年間平均10%以上なんですよ」と言っても、どうも、うさんくさい営業マンの

ように聞こえてしまう。あるいは、宗教のように「信じる者は救われる」という程度のニュアンスで取られてしまうんです。金融ビッグバンで、日本もようやく開国して明治時代が来たと思ったら、まだキリスト教が伝わっていません（笑）。

その意味では本文でも書きましたが、インターネットユーザーは『ネットユーザーである』というだけですでに先んじているはずなんですね。オンラインショッピングのことを考えれば、旅行者以外ではUSドル建ての銀行口座を持つ意味がある最大の人種ではないでしょうか。読んで納得したら、あとはそれぞれのニーズに応じて実行していただきたいですね。

あと、これは研究者としてもプロデューサーとしても断言できますが、日本でも5年後には今では考えられないくらい、オンライントレーディングが広まっているでしょう。インターネットそのもののブームも、金融に「使える」ことが一般に理解されてから、さらに本

格化すると見えています。表現を変えれば、お金にかかわりを持つすべての人が、インターネットと無縁ではいられなくなるということです。そんなビジョンの下、今後も新たな切り口で連載を続ける予定ですので、よろしくお願いします。

Profile

樹山 寛
Masuyama Hiroshi



「金融について、もっとも面白いのは世界情勢が自分と直接関係して見えるようになることです」

マネー入門者のためのキーワード解説

オフショアバンク

オフショア金融センターで登記された銀行。オフショア金融センターとは、国内の市場と切り離れた形で非居住者の資金の調達や運用を行う市場で、「タックスヘイブン」(Tax Haven = 税金回避地)とも呼ばれている。この地域は、金融や税制、為替管理などの規制が少ないのが特徴。日本でも1986年に東京オフショア市場(JOM)が創設された。90年代に入ってからは、タイが市場を創設したほか、中国や上海にも開設構想が出ている。

マネーロンダリング

違法な行為で得た資金(「汚れた資金」)が、口座を転々とするうちに「きれいな資金」に「洗濯」されることを言う。主に麻薬取引によって得た不正な資金についていう場合が多い。日本でも1989年12月に、「麻薬および向精神薬の不正取引防止に関するウイ

ーン条約」に署名することが国会で採択され、不正な取引の国際的な防止行動に協力している。また近年は、武器取引に絡む資金も問題になっている。

ファイナンシャルプランナー

資産の運用についてアドバイスを行う一種のコンサルタント。主に個人資産が対象になる。株式や債券、保険、不動産などの広範囲にわたって、投資利回りや税金対策に関する知識を持ち、もっとも有利な方法を考える。

パーソナルチェック

個人用の小切手。たとえば、外国の銀行で発行したドル建てのパーソナルチェックを持っていけば、ドルを使って購入した商品の決済を「ドル建て」で行えるの。そのため、オンライントレードなどでアメリカの証券会社に送金する際などに便利だと言われる。

本連載のバックナンバーをホームページにて公開中!

お金にまつわる環境が世界規模で目まぐるしく変化している現在、「金融ビッグバン+PC+インターネットでできること」をテーマに、半年にわたってお送りしてきた「Money meets the Internet!! ~実践、インターネット時代のマネー入門~」ですが、おかげ様で今月をもちまして第一部を終了いたしました。これまでの連載記事のバックナンバーはインターネットマガジンのホームページにて公開しています。記事のデータはPDFファイルになっていますので、Adobe Acrobat Readerが必要です。



<http://internet.impress.co.jp/money/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp